

岩越祐子「希望」



希望

岩越祐子

■ビワの木

苗から育てたビワの木

十三年後

大樹となって

大きな葉を繁らせ

ビワの実を

鳥達は喜んでついばんでいた

君の葉は

薬草となって

家族の健康に役立ってくれた

ネコは

君の幹で爪とぎをし

アシナガ蜂は

六月頃になると
家の軒下に巣を作り
君の蜜を吸っていた
君の回りには
蜂とネコと鳥がいた

今は

私もネコもいなくなった

新しい住人が

アシナガ蜂の巣を取り払えば

花も咲かず

実も成らず

鳥も来なくなるだろう

君は誰に求めるのでもなく

在り続ける

孤独に耐えて

今の環境を受け入れることだろう



岩越祐子「希望」



いつか

君を必要とするもの達が

現れるまで

待ち続けるだろう

君は

決してあきらめはしない

私は

そう信じている

■ 五月の風

からかうような風が吹いている
身体中を
くすぐるように

自転車に乗って走る私は
帽子をかぶっている
風が帽子を吹き飛ばそうとする

穏やかな午後
心地良い風のいたずら

部屋中に風がかけ回る
幼児が
かけ回っているかのように

急に風がやむ
幼児が寝てしまうように

岩越祐子「希望」

